

社会福祉法人 蓮花の会 令和5年度 事業報告

基本理念

生まれ育ったこの町でこの町のみなさんと一緒に暮らしていきたい（生きたい）と願う当事者家族の思いに寄り添い、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりを目指し地域福祉の向上に貢献します。

運営理念

ひとりひとりの個性と可能性を尊重し、住み慣れた地域の中で安心・安全で快適な暮らしができるよう、心かよいあう安定した福祉サービスの提供のために、法令を遵守して健全な法人運営に努めます。

<重点目標>

1 法人理念の浸透

毎朝のミーティング前に基本理念・運営理念及び7項目のスタッフの誓いの唱和を継続し法人理念の浸透に努めました。また、法人理念及び7項目のスタッフの誓いを基に作成した各サービス事業所理念を掲げています。

2 福祉人材の育成

重度化、多様化する障害特性への支援力向上を目的に、強度行動障害支援者養成基礎研修、及び実践研修への派遣や、各職能団体が開催する研修会、将来的なサービス管理責任者、児童発達支援管理責任者の育成を目指しサービス管理責任者基礎・実践研修会への受講を進めました。

3 法令遵守

各福祉サービス事業所の人員配置基準や個別支援計画作成の手順の確認を随時行いました。介護給付費等の請求事務については、新たに強度行動障害支援体制加算など事業所の機能強化を図ったこともあり、算定要件のチェックや、入力ミスがないよう誤請求がないように努めました。また、令和5年7月に佐賀県社会福祉課法人監査、令和5年10月に佐賀県障害福祉課実地指導をうけ運営改善を行いました。

4 啓発・広報

年間2回「蓮の実ニュース」を継続して発行しました。また、白石町役場の電光掲示板への広告を行いました。ホームページでは法人行事やブログを更新し、支援の様子などを発信しました。その他、マルシェ等に「ワークセンターがたっこ」として参加し、ドライ

フルーツの販売を通して地域への啓発を行いました。

5 組織機能の強化

改正社会福祉法に基づいた理事会・評議員会・監事監査会等を適正に開催し、組織統治体制を整備しました。また、税理士、社会保険労務士等の専門家によるチェック及び相談の体制の充実に努めました。

6 法人運営

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 理事・監事会の開催 計6回 | 2. 評議員会の開催 計2回 |
| 3. 監事監査会の開催 計1回 | 4. 評議員選任・解任委員会 なし |
| 5. 衛生委員会 1回/月 | 6. 虐待防止委員会 計2回 |
| 7. マネージャー会議 | 8. サービス管理（提供）責任者会議 |
| 9. 職員全体会議 1回/月 | |

(2) 財政基盤

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ① 地域活動支援センター事業収入 | ② 居宅介護事業収入 |
| ③ 重度訪問介護事業収入 | ④ 日中一時支援事業収入 |
| ⑤ 特定相談支援事業収入 | ⑥ 障害児相談支援事業収入 |
| ⑦ 生活介護事業収入 | ⑧ 共同生活援助事業収入 |
| ⑨ 短期入所事業収入 | ⑩ 放課後等デイサービスはなという事業収入 |
| ⑪ 就労継続支援 B型事業収入 | ⑫ 放課後等デイサービスゆめきら事業収入 |
| ⑬ 児童発達支援事業収入 | ⑭ 移動支援事業収入 |
| ⑮ 寄付金等収入 | |

(3) 市・町受託金・補助金等

・地域活動支援センター事業	白石町	4,750,000 円
・日中一時支援事業	3 町	6,379,446 円
・移動支援事業	2 町	1,473,385 円
・高齢者配食サービス事業	白石町	7,339,600 円

(4) その他の補助金・助成金等を積極的に申請して法人運営に活用しました。

・白石町手をつなぐ育成会	25,000 円
・生きがい活動支援補助金（町社会福祉協議会）	50,000 円
・NHK 歳末たすけあい募金配分金（共同募金会）	25,200 円
・物価高騰応援金（佐賀県）	1,070,000 円
・業務代替支援助成金（労働局）	475,000 円
・送迎バス安全対策事業補助金（佐賀県）	525,000 円

・金子財団助成金（障害児支援）

154,638 円

7 利用環境の向上

- (1) 新型コロナ感染症が 5 類感染症に移行しましたが、引き続き支援中のマスクの着用や手指消毒、室内の換気を励行しました。
- (2) 本体施設北側の駐車場整備を行い令和 6 年 1 月より使用を開始しました。施設敷地内の駐車場が空いたことにより、利用者家族や来客者の駐車がスムーズになりました。また、放課後等デイサービスの利用児が屋外で活動できるスペースができ日々の支援に活用できるようになりました。
- (3) 金子財団助成金を申請し、放課後等デイサービス、児童発達支援事業所の療育備品を整備しました。
- (4) 新拓地区のサロンを再開しました。第 2・4 週の水曜日に本体施設 2 階交流室にて介護予防体操を実施されています。
- (5) 新グループホームを令和 7 年 4 月に開設します。そのため、待機登録されている利用者と入居に対しての意向を確認しました。現在のところ 6 床すべての居室が利用予定となっています。

令和5年度 地域活動支援センター事業報告

地域活動支援センター事業 ～理念～

住み慣れた地域の中で安心して過ごすことができるよう笑顔で接し、利用者の気持ちに添った支援に努めます。

1 事業運営基本計画

利用者が生まれ育った地域で、楽しく豊かに暮らすことが出来るよう、日中活動において、それぞれの障害特性に応じた排泄・食事等の必要な支援を実施しました。併せて生産活動の機会の提供を通して就労への意欲を喚起し、社会との交流を促進するとともに、一人ひとりの個性を尊重した事業経営に努めました。

2 利用者の処遇

利用者個々の障害特性に応じた軽作業を検討し、働く事の意義と楽しさを知って貰う事で、心身の活性化と日常生活動作の向上に結びました。また、季節ごとの行事を取り入れ、他者と交流できるよう支援いたしました。

3 利用者の実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	33	39	43	30	15	35	25	36	21	12	30	25

年間延べ利用者数 344人 月平均利用者数 28.7人 1日平均利用者数 1.4人

4 健康管理

毎利用の始めに体温と血圧の測定を行い、感染予防対策として手指消毒、マスク着用、アルコール消毒、室内の換気など徹底しました。

5 防災計画

年2回、令和5年7月28日、令和6年2月29日、施設内他事業と合同で火災を想定した避難誘導訓練及び災害を想定した避難訓練を実施し、避難誘導訓練や避難経路の確認を行いました。

6 日課

サービス提供時間（土・日・祝祭日を除く 9:30から15:30）において、利用者の体調等を考慮して作業内容を検討し、缶回収、JA作業（お茶の箱作り）、ボタン入れ、弁当配達など無理がない程度の日中活動を提供し、希望される方は入浴も提供しました。

7 職員研修

内部、外部の研修等に積極的に参加して、職員会議等で伝達・報告し、事業所全体の資質の向上とサービス向上に努めました。

令和5年度 居宅介護事業・重度訪問介護事業報告

1. 基本業務の内容

利用者が自宅において、安心、安全に過ごすことができるように時間を厳守して訪問しました。朝の支度や、入浴等の身体介護及び調理等の家事援助を実施しました。

また、一人で病院等を受診できない方や外出に支援が必要な方は、福祉有償運送車両を用いて安全運転で目的地まで送るよう努めました。家族と顔を合わせる機会が少ない利用者には、家族と事業所間の連絡帳を作成して利用者の様子を報告するなど家族との連携に努めました。

2. 利用者の処遇

利用者が出来ることは、自発的に行っていただけるように、自信が持てるような言葉かけに留意した支援を行い、これまで過ごして来られた生活習慣を大切にし、課題が見えた場合には、会議等で検討、より良い支援につなげることで利用者に安心と信頼を得られるよう努めました。

3. 健康管理

毎回、サービスを利用の際に、本人もしくは家族に体調や生活面の様子を伺い、変化等がある場合は、記録に残しました。検温、手指消毒、マスク着用、アルコール消毒など徹底しました。

4. 利用実績（人数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
身体介護	4	5	4	4	3	4	3	3	4	4	4	2	44
重度訪問介護	1	1	1	0	1	0	0	0	1	1	1	1	8
家事支援	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	4	4	63
通院	14	20	14	17	14	16	16	16	18	11	16	15	187
外出支援	12	14	16	12	14	12	14	11	12	9	10	10	146
延利用人数	37	46	41	39	38	37	38	35	40	30	35	32	448

※延べ利用者人数は前年度比-（-41人）

5. 移動支援

福祉有償運送により、通院及び外出等の支援を行ないました。令和5年度は、延べ608回の利用があり、10,848km走行しました。

6. サービス提供時間

午前7時30分からの利用される方や夜間の相談も多く、利用者がいつでも連絡できるよう専用の携帯電話を窓口として24時間体制で行いました。

7. 資金報告

通常の運営費は、介護給付費、利用者負担金収入で賄いました。

令和5年度 生活介護事業報告

1 事業運営の基本方針

利用者が自立した日常生活または社会生活を営む事ができるように入浴、排泄及び食事の介助、創作的活動又は生産活動の機会を提供しました。住み慣れた地域で、これからも暮らしていけるようにきめ細やかな支援をすると共に、ひとりひとりの個性を尊重した事業運営に努めました。

2 利用者の処遇

利用者の基本的人権を尊重し、常に利用者の立場に立って心身の健康保持と身体機能の向上に向けた支援を行いました。入浴支援には特に力を入れ、それぞれのペースでゆっくりと入って頂くよう対応し、個々の要望に添えるようまた安全かつ自立に繋がる支援を行いました。

3 健康管理

毎朝、利用始めにバイタルチェック（検温・血圧測定・体調確認等）を実施し、体調不良及び身体に変化がある場合は看護師と協力しながら対応し、必要に応じて個室での状態観察も行いました。また、嘱託医による月1回の往診、健康相談を実施しました。感染予防対策として日常の手洗いと室内の換気の励行、温度・湿度の調整をこまめに行いました。体温調節が難しい利用者には衣服等の調整を行い健康管理に努めました。感染症対策として体温チェック表を各家庭にお渡しし、ご自宅での朝の体温を記入して頂くと共に、事業所でも朝・昼、15時に測定し観察を行いました。特に手洗い・うがい・手指消毒・換気の励行、消毒液で窓・ドアノブ・床・机・椅子等清掃を行いました。

4 防災計画

火災を想定した避難訓練を令和5年7月28日（金）と令和6年2月29日（木）に実施しました。

5 人材育成と専門性の向上

ご利用者個々の特性に応じた対応が重要であり、職員のスキルアップが必須です。職員の育成に向け、内部・外部研修に参加して職員会議等で伝達、報告を行う事で事業所職員全体の資質の向上とサービスの質の向上に努めました。

令和5年度は強度行動障害支援者養成研修に4名の職員が受講する事が出来ました。

【職員研修】

- ・4/26 強度行動障害を理解するために
- ・11/6、11/7 強度行動障害支援者養成研修(基礎)
- ・11/14、11/15、11/21、11/28、11/29 相談支援従事者初任者研修
- ・12/12、12/16、12/19 地域生活支援ネットワークサービス管理責任者更新研修
- ・1/11、1/12 強度行動障害支援者養成研修(基礎)

・3/11、3/12 3/18、3/19 強度行動障害支援者養成研修(基礎)

6 年間スケジュール

・4月…入所式、花見 ・5月…ドライブ ・8月…夏祭り ・12月…クリスマス会、佐賀県立美術館見学 ・1月…新年会・初詣 ・2月…節分

※誕生会は毎月実施し、また壁画作成、貼り絵、ハロウィン飾り付け等季節に応じたレクリエーションを実施しています。

7 資金計画

令和5年度計算関係書類の通り、運営費は介護給付費で賄いました。

8 利用実績

	月/区分	2	3	4	5	6	計	市町村別利用者数		年齢別利用者数	
								(令和6年3月31日現在)		(令和6年3月31日現在)	
令和5年	4月	0	8	58	115	204	385	市町村	人数	年齢	人数
	5月	0	12	67	119	219	417	白石町	14	19~25	9
	6月	0	11	62	123	209	405	江北町	1	26~30	5
	7月	0	12	59	123	208	402	大町市	4	31~40	3
	8月	0	11	56	128	196	391	嬉野市	2	41~50	2
	9月	0	12	58	116	203	389	武雄市	1	51~60	3
	10月	0	12	67	113	189	381	鹿島市	1	61~65	1
	11月	0	12	60	122	182	376	小城市	1	66~70	1
	12月	0	11	57	120	173	361	計	24	計	24
	令和5年	1月	0	9	54	101	155	319			
	2月	0	10	54	101	143	308				
	3月	0	0	64	113	162	339				
利用者延数(A)		0	120	716	1394	2243	4473				
令和4年度(B)		0	185	849	1161	2272	4467				
増減(A-B)		0	-65	-133	+233	-29	+6				

※利用者の81.3%は障害支援区分5または6を有し、日常的にマンツーマンをしています。(昨年度は76.9%)

令和5年度 指定特定相談支援事業（障害者・障害児）報告

- 事業の目的である“常に利用者（児）の立場に立って、利用者（児）や家族が望む自立した日常生活又は社会生活ができるように、障害福祉サービス事業所等との連携を図り、利用者が暮らしやすい計画相談（サービス等利用計画・障害児利用支援計画）の提供の確保”に努めました。
- 特定相談支援事業所運の理念である“寄り添い、ともに歩く”を具現化できるように利用者（児）が関わっている様々な機関で、様子を見せてもらいお話を伺いました。又、利用者（児）や家族等の願いや暮らしを実現できるような計画を立てて、支援を提供してくれる事業所等を探して繋げました。小学校に入学される方は入学式前に関係者に集まってもらい移行支援会議を行いました。必要に応じて利用者や児童の支援会議を開催しました。Dr や訪看等の医療関係の方との支援会議も行いました。

3 サービス等利用計画（18歳以上）作成件数及びモニタリング件数その他

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計画作成	4	3	10	5	3	8	6	7	4	3	8	3	64
モニタリング	17	16	15	11	13	15	9	14	18	11	10	14	163
その他	2	5		4	1	2	7	2		2	2		27
合計	23	24	25	20	17	25	22	23	22	16	20	17	254

※令和5年度 障害者計画相談登録者数 男性 34名 女性 24名 合計 58名

4 障害児支援利用計画（18歳未満）作成件数及びモニタリング件数その他

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計画作成	3	10	7	11	16	15	13	19	9	8	11	15	137
モニタリング	26	36	26	15	26	25	23	20	17	20	25	18	277
その他	3	6	7	16	8	4	4		5	8	1	2	64
合計	32	52	40	42	50	44	40	39	31	36	37	35	478

※令和5年度 障害児計画相談登録者数 男児 93名 女児 30名 合計 123名

その他とは：更新やモニタリング月以外の必要に応じた訪問や、会議の開催又は参加等です。

5 職員研修その他：土日含む

研修内容	開催日
発達障害支援サポーター養成研修	4/25・5/24・6/8・9/15・2/15
相談支援部会	4/18・5/16・7/18・8/22・1/16・2/13
障害等研修	4/2・4/15・5/13・6/2・6/10・7/14・7/30・10/13・12/2・12/12・12/17・12/19・1/27・2/17
自立支援協議会	4/25・6/9・6/15・9/15・10/24・12/8・12/9・1/19
医療的ケア児者	7/5・8/5・8/22・10/7,8・10/20・11/5・11/18・11/25,26 11/29・2/2・2/6
職員全体会議	4/26・5/25・6/21・7/19・8/23・9/27・10/25・10/28・11/22 12/20・1/24・3/20

令和5年度 共同生活援助事業報告

1 業務報告

利用者が安心して穏やかに暮らすことができるよう、家庭的な雰囲気作りに努めました。利用者の言葉に耳を傾け、コミュニケーションを図り、利用者の自己選択、自己決定を大切にした支援を心掛けました。ホームの理念に添い、温かいホームで、楽しい共同生活を送る事が出来るよう努めました。個別支援として、買い物の支援や外出、外食等、入居者の希望を聞きながら、出来るだけ実施するよう努めました。

*コロナ感染について

感染防止のため施設内の除菌や手指消毒等に努めました。6年3月 1名コロナに感染され、本体施設2階で隔離、職員1対1で介護を行い、他の入居者への感染はありませんでした。

2 利用者の処遇

利用者の心身の状況や、ひとり一人の個性を尊重し、また家族の意向を確認して、個別支援計画を作成しました。その計画に基づき、チームで統一した支援を実践するように毎月の支援会議で申し合わせを行いました。利用者が介護を受けるだけでなく、本人が出来ることを見つけ、毎日の掃除機かけ、洗濯物干しや洗濯物たたみ、コップ洗い等職員とともに実行することで、出来る事をふやしていく取り組みをしました。

3 健康管理

毎朝、バイタル測定を実施し、異常の早期発見に努めました。週ごとに朝、夕の献立を作成し、バランスの取れた消化の良い食事の提供に努めました。誤嚥防止や咀嚼力により個々に合わせた食事形態に配慮しました。また増加しがちな体重管理の為、野菜中心のメニューを作成し提供しました。年間を通じてコロナウィルスやインフルエンザ感染防止の為、手洗い、消毒、施設内の除菌作業を毎日行いました。

4 環境の整備

日頃から清掃、換気に努め清潔な環境で気持ち良く生活出来るよう配慮しました。衣類は毎日、リネンは毎週洗濯し快適な暮らしに向け努めました。

5 防災計画

防災計画を作成すると共に、2月と9月の20時に災害時避難訓練を実施しました。利用者へは事前に知らせることなく実施しましたが、回数を重ねるごとに短時間でスムーズな避難ができています。避難に関わる必要物品や備蓄も準備しています。

6 人材育成と専門性の向上

職員全体会議やスタッフ会議への参加を促し、個人のスキルアップと職員間で統一したケアが出来るように報告、連絡、相談に努めました。強度行動障害支援加算を算定しており、加算条件となっている研修へ参加しました。

*職員研修参加状況

〈法人外研修〉

6/20・27・28	佐賀県強度行動障害支援者養成研修	草場照代
12/19	従事者向け障害者虐待に関する研修会	山中・吉永・小森・草場
12/20	きょうされんグループホーム・生活・施設学習交流会	山中
3/11・12	強度行動障害支援者養成研修	小森祥子

〈

〈法人内研修〉

- 4/26 強度行動障害の理解
- 5/25 支援の基本的な枠組み・福祉の制度
- 9/27 摂食嚥下と不随意の境界
- 2/21 強度行動障害について

7 入退居報告

退居者 2名

入居者 2名

現在6床 満床

令和5年度 短期入所事業報告

1 業務報告

利用者が安心して宿泊することができるよう、家庭的な雰囲気作りに努め、保護者や関係機関との連携を密にして自立に向けた支援に努めました。

2 利用者の処遇

利用者一人ひとりの心身の状況に応じ、職員が手を出し過ぎず日常生活上の必要な支援を考慮して利用の ADL の向上に努めました。利用者ごとに支援目標を定め、個々のニーズに添った支援が出来るよう職員はケアの統一に努めました。

3 健康管理

利用者のし好調査を行いつつ、バランスと消化の良い食事の提供に努め、来所時と起床時の健康チェックを行い体調の変化に留意しました。5年度もコロナウィルスの感染防止のため、手洗い、消毒に努め、施設内の除菌作業を毎日実施しました。

4 環境の整備

施設内の美化と利用者の身の回りの整理整頓に努め、衣類等は入浴後に洗濯し、終了時は清潔な衣類を返却しています。快適な環境で過ごせるよう換気、通気に気を配り空調の管理を行いました。

5 災害避難訓練の実施

防災計画にそって年2回、夜間避難誘導訓練を実施しました。(2月・9月)

6 人材育成と専門性の向上

スタッフ会議や職員全体会議に参加して、個人のスキルアップと共に伝達研修や報告会を通して事業所全体の資質の向上とサービスの質の向上に努めました。

令和 5年度 短期入所利用実績

月	利用者数(人)	利用日数(日)	利用延べ日数(日)
4	16	51	109
5	14	48	106
6	15	50	105
7	15	52	109
8	15	48	103
9	14	49	104
10	14	49	106
11	14	47	99
12	17	48	100
1	15	48	100
2	14	50	102
3	13	46	109
合計	176	586	1252
平均	15	49	104
昨年度 実績	15	44	93

令和5年度 放課後等デイサービスはなという事業報告

1. 事業運営の基本計画

障害をもつ児童に対し、放課後及び土曜、祝日や長期休業時などに、生活能力の向上に必要な訓練、社会交流、コミュニケーション能力向上への支援を行いました。また、特性に応じた環境調整により安心して過ごせる空間作りを行ったり、児童が成功体験を積むことが出来るような活動を計画したりしました。

支援の質が低下しないように、個別支援計画作成手順を遵守し、職員全体で支援の目標や方法を共有できるように努めました。

2. 利用者の処遇

保育士、児童指導員を配置し支援にあたりました。令和5年3月より定員10名となり、それぞれの特性に応じた環境調整を行い手厚く支援ができる環境を提供し、日常生活動作訓練や、学習課題、コミュニケーション能力の向上、社会性の向上(ルール理解)等を行いながら、休日などの一日利用時には行事を計画し余暇時間の充実を図りました。

3. 研修計画

施設内全体研修では、講師を招いて研修を行いました。施設外研修としては行政が主催する研修会、各団体などが開催している研修会に積極的に参加しました。研修に参加した職員が学んだことを、事業所内ミーティング等で他職員にも報告することで、特性理解や支援技術の向上へと繋げました。

4. 健康管理

保護者様や学校担任への体調等の聴取は随時実施しました。利用開始時には体温測定などのバイタルチェックを行いました。

衛生管理面にも配慮し、来所時の手洗い・消毒、食事やおやつ前の手洗いを実施しました。新型コロナウイルス感染予防対策としては、各家庭に感染症予防対策への協力依頼のお便りを配布、日頃より各家庭にて朝昼夜の検温を徹底していただき、利用時に検温表のチェックを行いました。また、玩具や机などの備品の消毒、室内換気、利用児童へのマスク着用の促しを行いました。

5. 防災計画

令和5年7月28日(金)午前11時00分に本体施設生活介護(浴室)より漏電による火災が発生、令和6年2月29日(木)午前11時00分に乾燥小屋より漏電による火災が発生したという想定にて、2回避難誘導訓練を実施しました。

6. 日課

学校からの送迎後、手洗い・消毒、バイタルチェックを行い、個別支援計画に沿った課題や訓練を実施しました。特性に応じて個室で宿題等をしたり、知育ゲーム・玩具を友達と一緒に楽しまれたり、外に出て集団遊びをしたり、各々が好きなことをして過ごせるようになりました。

7. 実績

① 利用契約児童数（令和5年3月より）定員10名

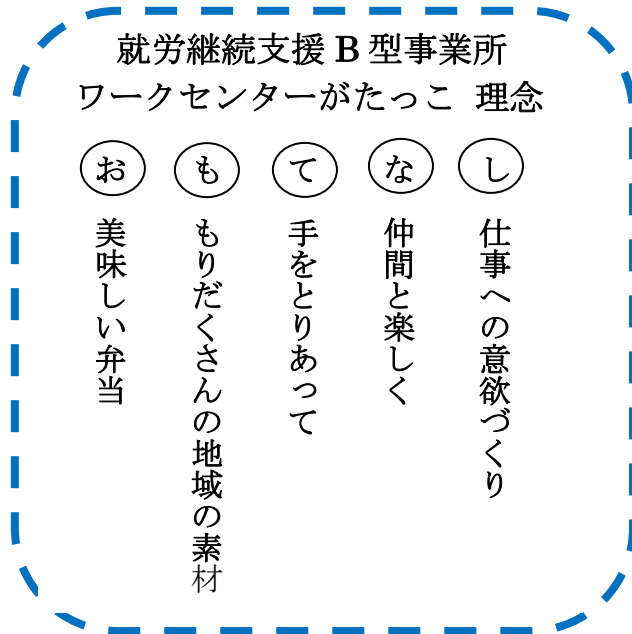
小学部	中学部	高等部
24名	7名	4名

8. 利用実績児童数（令和5年4月～令和6年3月）

令和5年3月より定員10名

年 月	延べ利用者数	1日平均利用数
令和5年4月	227名	9.08名
令和5年5月	252名	9.33名
令和5年6月	255名	9.80名
令和5年7月	247名	9.5名
令和5年8月	253名	10.5名
令和5年9月	249名	9.57名
令和5年10月	239名	9.19名
令和5年11月	249名	9.57名
令和5年12月	262名	10.48名
令和6年1月	225名	9.37名
令和6年2月	225名	9名
令和6年3月	236名	9.83名

令和5年度 就労継続支援B型 事業報告



利用者数 15名（1日平均利用者数 10名）

職員数 17名（調理、配達員、事務補佐、兼務も含む）

★事業運営の基本計画

一般就労が困難である利用者に対して就労の機会を提供し生産活動やその他の活動を通じて、ひとりひとりの個性を尊重し地域における生活の充実と社会的自立の支援に努めました。

★利用者の処遇

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日		25	27	26	26	24	26	25	26	25	24	25	26	306
利用者	延べ人数	236	249	252	239	246	273	265	273	277	255	244	272	3,081
	1日平均	9	9	10	9	10	11	11	11	11	11	10	10	
工賃	総支払額	228,420	240,659	237,877	434,499	236,657	267,224	256,209	267,178	563,298	238,995	242,324	270,971	3,484,311
	月額工賃支給者数	14	14	14	14	15	15	15	15	15	15	15	15	

※7月・12月は賞与を含む

利用者の立場に立ち心身の健康保持と生産活動の能力向上に努めました。

平均工賃は、令和5年度目標の2万円以上を達成しました。

余暇活動は施設全体行事の新年会、入所式、クリスマス会を行い、利用者同士の交流を深め1月には祐徳稻荷神社へ初詣に出かけました。

★生産活動

①弁当事業・配食サービス（手作りの美味しい弁当）

弁当・配食事業は、お客様のニーズに出来る限り対応した弁当を提供しました。

お弁当の総数は34,988個、一日平均115個でした。前年比5,712個の増でした。

配食の総数は11,738個で一日平均38個でした。前年比737個の増でした。

厨房では野菜の皮むきや刻み、盛り付け、洗浄などの作業を行いました。また地域への弁当配達にも行き、地域の方との交流も行いました。

弁当・配食		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均/月
弁当	個数/月	2,699	2,944	2,897	3,092	2,908	2,987	2,962	3,117	2,886	2,726	2,830	2,940	34,988	2,916
	1日平均	108	109	111	119	121	115	118	120	115	114	113	113	1,377	115
配食	個数/月	826	1,002	938	1,003	902	1,001	1,058	1,024	995	866	980	1,143	11,738	978
	1日平均	33	37	36	39	38	39	42	39	40	36	39	44	462	38

②内職（JA 葬祭用ギフト包装作業・日本文教センター）

JA 葬祭用ギフト包装作業は、箱折り等作業に慣れてこられ作業ペースが上がり、前年比 6,100 個の増でした。10月より内職を増やし能力に合わせた出来る作業を提供しました。

内職	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均/月
JAセレモニー	2,000	2,000	2,000	2,000	2,500	2,000	1,500	3,000	3,200	3,500	4,800	3,000	31,500	2,625
日本文教センター							16,000	8,000	8,000	16,000	12,222	16,000	76,222	6,352

③自 主 製 品（加工食品・ドライフルーツ製造・販売）

施設敷地内で胡椒（唐辛子）を栽培・収穫し、柚子胡椒に加工して、道の駅や直売所へ納め、ドライフルーツは白石町商工会ほっと横丁、ぺったんこ祭り、金魚市や共同受注窓口主催のマルシェに出店しました。

④そ の 他 作 業（空き缶・古紙回収）

地域を定期的に回って空き缶・古紙回収作業を行いました。



★防 災 訓 練

火災を想定した避難訓練を令和 5 年 7 月 28 日（金）、令和 6 年 2 月 29 日（木）に行いました。

令和5年度 児童発達支援事業ほっぷ・すてっぷ事業報告

ほっぷ・すてっぷの理念

子どもたちが持つ可能性や強みに着目し、
成功体験を積み重ねることとことばを育てていきます

1. 事業運営の基本方針

児童が日常的な基本動作を習得し、集団生活に適応することができるよう、児童の心身及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて、適切かつ効果的な指導及び訓練を行いました。

2. 利用児童の処遇

保育士、社会福祉士の専門職を含めた職員を配置し支援にあたりました。日常生活動作訓練や個別訓練、コミュニケーション能力の向上、社会性の向上等を身につけることへの支援を行いました。

3. 健康管理

保護者に児童の体調等を提供記録に記入して頂き、また保育園に迎えに行った際、担任へ登園時からの体調等の聴取を実施しました。利用開始時には体温測定などのバイタルチェックを行いました。衛生管理面にも配慮し、来所後、食事の手洗い実施や、室内の換気などこまめに行いました。感染予防対策としては、各家庭にて来所前日の夜、来所日の朝の体温チェックやマスク着用等のご協力をして頂きました。事業所でも来所時と昼に体温測定を行い、玩具、机などの備品は消毒を行い、清潔を保つように努めました。

4. 防災計画

令和5年7月24日（月）25日（火）26日（水）27日（木）28日（金）生活介護浴室から火災を想定した訓練を実施しました。又、令和6年2月13日（火）14日（水）、15日（木）、16日（金）、2月26日（月）は、乾燥小屋火災を想定した避難訓練を実施しました。

5. 日課

保育園や自宅への送迎後、バイタルチェック、朝の準備、排泄、手洗いを行い、個別支援計画に沿った訓練を実施しました。朝の会は年齢に応じた活動を行い、椅子に座る練習をしました。また個別訓練を行う事で、苦手な課題を克服できるよう支援しました。就学に向け、年長の児童には、グループワークを行い、他の児童と一緒に課題に取り組みました。今年度は、年長の児童16名の卒所式を行いました。

6. 研修参加実績

発達障害支援サポーター養成研修会

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修

7. 実績

①利用契約児童数 契約児童総数 39名

未満児（3歳以下）	年少児	年中児	年長児
4名	7名	12名	16名

②利用実績児童数（令和5年4月～令和6年3月）定員10名

年 月	開所日	延べ利用児童数	1日平均利用数
令和5年4月	20日	65名	3.2名
令和5年5月	20日	62名	3.1名
令和5年6月	22日	92名	4.2名
令和5年7月	20日	82名	4.1名
令和5年8月	19日	89名	4.7名
令和5年9月	20日	112名	5.6名
令和5年10月	21日	131名	6.2名
令和5年11月	20日	132名	6.6名
令和5年12月	21日	132名	6.3名
令和6年1月	18日	119名	6.6名
令和6年2月	19日	134名	7.0名
令和6年3月	20日	149名	7.4名



令和5年度 放課後等デイサービスゆめきら事業報告

1. 事業運営の基本計画

障害をもつ児童に対し、放課後及び土曜、祝日や長期休業時などに、生活能力の向上に必要な訓練、社会交流、コミュニケーション能力向上を目的に支援を行いました。また、特性に応じた環境調整により安心して過ごせる空間作りを行い、児童が成功体験を積むことが出来るような活動を計画しました。支援の質が低下しないよう、個別支援計画作成手順を遵守し、職員全体で支援の目標や方法を共有できるように努めました。

2. 利用者の処遇

保育士、児童指導員、小・中学校教諭免許等の専門職を含めた職員を配置し支援にあたりました。日常生活動作訓練や、学習課題、コミュニケーション能力の向上、社会性の向上(ルール理解)等を行いながら、休日などの一日利用時には各日で行事を計画し、屋外活動を取り入れながら余暇時間の充実を図りました。

3. 研修計画

施設外研修としては行政や各団体が主催する研修会や子ども支援部会へ積極的に参加しました。研修に参加した職員が学んだことを、事業所内ミーティング等で他職員にも報告することで、特性理解や支援技術の向上へと繋げました。

4. 健康管理

保護者や学校担任への体調等の聴取は随時実施しました。乗車時と利用開始時には体温測定などのバイタルチェックを行いました。衛生管理面にも配慮し、来所時の手洗い・消毒、食事やおやつ前の手洗いを実施しました。新型コロナウイルス・インフルエンザ感染予防対策としては、各家庭に感染症予防対策への協力依頼のお便りを配布、日頃より各家庭にて朝昼夜の検温を徹底していただき、利用時に検温表のチェックを行いました。また、玩具や机などの備品の消毒、室内換気、利用児童へのマスク着用の促しを行い、児童に対しても感染症対策の理解を深めるために会の集まりなどで周知・徹底を行いました。

5. 防災計画

- ・令和5年5月27日午前11時00分にゆめきら事務所より火災が発生
- ・令和5年8月18日午後13時00分に地震の後にキッチンからの火災が発生
- ・令和5年12月26日午後14時30分に事務所より火災が発生

以上の災害を想定し、近くの北川公民館まで3回避難誘導訓練を行いました。

また、令和5年5月27日の避難訓練では開所して初めての避難訓練という事もあ

り地域の避難場所を確認・周知するために火災避難訓練後、大雨洪水を想定して白石町総合センターまでの移動避難訓練を行いました。

6. 日課

学校からの送迎後、手洗い・消毒、バイタルチェックを行い感染症対策を行いました。また毎日ソーシャルスキルトレーニングの時間を取り入れ個別の支援計画や課題に応じた訓練を実施しました。特性に応じてパーテーションで区切った個室で宿題等をしたり、知育ゲーム・玩具を友達と一緒に楽しまれたり、休日は外に出て集団遊びをしたり、各々が好きなことをして過ごせるようになりました。

7. 利用実績

① 利用契約児童数 契約児童総数 26名

小学部	中学部	高等部
26名	0名	0名

② 利用実績児童数（令和5年4月～令和6年3月）

年 月	延べ利用者数	1日平均利用数
令和5年4月	214名	8.5名
令和5年5月	208名	7.7名
令和5年6月	207名	7.9名
令和5年7月	191名	7.6名
令和5年8月	178名	7.4名
令和5年9月	206名	7.9名
令和5年10月	202名	8.0名
令和5年11月	194名	7.4名
令和5年12月	180名	7.2名
令和6年1月	182名	7.5名
令和6年2月	178名	7.1名
令和6年3月	234名	9.0名

新放課後等デイサービスが開設し、1年が経ちました。子どもたちもゆめきらでの生活に慣れ、笑顔で過ごす姿がたくさん見られるようになってきました。地域交流を行うために、地域の散策や公園・図書館で余暇時間を過ごしたり、清掃活動などを取り入れたりしながら地域社会へ貢献し地域との関りを深めています。

令和5年度 新グループホーム建設事業報告

1. 事業運営報告

- ① 地区長及び近隣住民に対し、グループホームの概要及び建設までの計画を説明しました。
- ② 建設用地近隣の耕作者に対し、建設までのスケジュール等の説明を行いました。
- ③ 建設用地の所有者に対し、購入手続きや売買金額等の相談を行いスムーズな契約を行いました。

2. 行動報告

- | | |
|---------|--|
| 令和5年8月 | 佐賀県障害福祉関係施設整備費補助金申請 |
| 令和5年10月 | 福祉医療機構へ融資相談 |
| 令和5年12月 | 建設用地の農地転用許可申請 |
| 令和6年2月 | 建設用地の農地転用許可決定
建設用地の売買契約及び登記 |
| 令和6年3月 | 建設用地の造成工事業者入札
造成並びに建設に係る資金融資の入札
令和5年度佐賀県障害福祉関係施設整備費補助金補正予算交付決定 |

令和5年度 日中一時支援事業報告

日中一時支援事業 理念

- ・ご家族との連携に努め、安心して預けられる『場所』を作ります。
- ・利用者の特性を把握して、日々の学びを深めながら統一した支援に努めます。

1 運営基本計画

利用者ひとりひとりの個性と家庭の教育方針を尊重し、生活習慣の確立及び機能の向上に心がけ、明るく楽しい施設運営に努めました。

2 利用者の処遇

すべての利用者を平等に処遇し、趣味の活動や娯楽を通して将来の自立に向けた生活習慣の指導・訓練とADLの向上に努めました。ショートステイ利用後、登校前支援としてうれしの特別支援学校への朝送りに対応しました。

3 利用者実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登校前支援	6	3	3	1	0	0	2	1	1	5	4	3	29
日中支援	177	173	170	149	134	166	156	141	138	133	134	151	1822

4 環境整備

前年度に引き続き、感染症予防に心がけ、施設内清掃と利用者周辺の整理整頓に心がけました。食事やおやつ前には手洗いを促し、利用前、利用後には手すり椅子、テーブルなどのアルコール消毒を励行するなど健康保持に努めました。

5 防災計画

年2回、令和5年7月28日、令和6年2月29日施設内他事業と合同で火災を想定した利用者を含めた避難誘導訓練を行いました。計画的に実行し、今後の対策と反省点などを職員全体で共有できました。

6 日課

平日	学校の下校に合わせて送迎車で施設へ移動
趣味活動	15:30～18:00 (保護者迎えまで)
帰宅 (事業所送り)	通常 17:00 事業所発
帰宅 (保護者迎え)	通常 18:00 まで
土曜 祝祭日 学校休業日	受け入れ時間 9:00～17:00

7 職員研修

内部、外部の研修に積極的に参加し、職員全体会議で伝達報告を実施することにより事業全体の資質の向上と統一した支援に努めます。